

## 2025 年のガス市場見通し

- LNG 供給大拡張の入口。同時に不確実性は継続、市場安定化に課題 -

### < 報告要旨 >

一般財団法人 日本エネルギー経済研究所  
資源・燃料・エネルギー安全保障ユニット ガスグループ  
柳沢 崇文

### 本報告のポイント

1. 世界の LNG 供給は 2025 年を「入口」に、2030 年頃にかけて需要見通しを上回る形で伸長する見通し。北米を中心に、中東、アフリカ、アジアで新規 LNG 生産プロジェクトが稼働開始する見込み。
2. 但し、建設中のプロジェクトに不確実性が散見（対ロシア制裁、アフリカの政情不安、米国の LNG 輸出許可一時停止、豪州の政策動向など）され、供給拡大は緩やかなものになると見る。また供給拡大に伴う市況の軟調傾向の継続により、アジアを中心に需要が上振れる可能性もあり、2030 年頃とも言われる LNG の「供給過剰」は現実化しないとも考えられる。
3. 国際ガス・LNG 市場では、引き続き季節需要変動、供給支障時に一時的な逼迫が発生する可能性も残る。中長期的な LNG プロジェクトに対する投資・融資の継続は引き続き重要である。
4. 米国トランプ 2.0 政権は、バイデン政権による非 FTA 締約国向け LNG 輸出許可一時停止を速やかに見直す公算が高い。その一方、貿易赤字を理由に LNG の購入圧力を強める可能性がある。日本は需要増加が見込まれるアジアの LNG 市場も視野に入れた日米協力を改めて模索していくことが重要となる。
5. メタン排出対策強化の流れは欧米の事業者間で引き続き進む可能性が高く、日本も「CLEAN」を中心にその取り組みに対する理解をアピールしていくことが重要となる。
6. 運河・航路ボトルネックにより、LNG 輸送面の合理化・最適化の必要性がさらに高まることが予想される。北米西海岸の LNG 輸出開始は、輸送隘路の回避、輸送ルートの短縮化・多様化の面でゲームチェンジャーとなりえる。

### その他の参考情報

#### < LNG 価格及び需給見通し >

7. 日本の LNG 輸入価格は、原油価格低下傾向の下、2024 年 100 万 Btu 当たり（以下同様）12.1 ドル、2025 年 11.0 ドルと予測する。他方、LNG 需給で決まるアジアのスポット LNG 価格は、2024 年 12 ドル弱、2025 年は 13.5

ドル程度と予測する。

8. 2024年の世界天然ガス、LNG市場は全体としては軟調に推移しており、この傾向は2025年も継続するが、価格は他の化石燃料価格に比べて相対的に高水準を維持すると予測する。市況感は、2022年2月のウクライナ危機直後は一時70ドル程度まで高騰し、その後も20~60ドル付近を推移した。しかし2022年末以降は北半球、特に欧州連合（EU）におけるガス需要削減策や高価格による需要破壊を主因に、20ドルを下回り、その後も10~20ドル（低い時には1桁台）を比較的安定して推移している。なお、直近では欧州のガス在庫が低下傾向を示し、気温・天候要因での需要増などもあって、今後の価格動向が注目される。LNG供給は、米国産を中心に豊富であり、大きなトラブルがなく稼働している。
9. 世界LNG市場規模は、2024年4億トンから、2025年4.4億トン、2025年4.6億トンと拡大する見通し。

#### <LNG市場のバランス要因（2025年、2026年）>

10. 米国、豪州、カナダを中心に新規・拡張LNG生産プロジェクトの順調な稼働開始が世界のLNG安定供給のカギとなる。
11. 引き続き、欧州、中国の需要動向がLNG市場の需給バランスを左右することとなる。中国のガス市場は2022年に規模が初めて縮小したが、2023年は増加基調となり、2024年（1~9月）は過去最高水準となっている。具体的には、ガス消費量が前年同期比10%弱、国内ガス生産は同7%超、LNG輸入は同12%弱、パイプラインガス輸入は同15%弱の増加となっている。なお、インドは中国の市場規模の5分の1程度であるが、2022年に高価格による縮小後、2023年以降は増加基調、2024年も増加傾向は継続している。

#### <LNG市場の将来を見据えた留意点>

12. 北米を中心に、中東、アフリカ、アジアなど世界各地でLNG供給増への取り組みが進展。今後はフロンティア資源あるいは高難度の案件が多くなることから、開発に伴うリスクも散見される。
13. 建設決定後の遅延・コスト増加リスクも浮上している。中期的拡大を米国が牽引する一方、非FTA向けLNG輸出許可の一時停止、建設許可取り消し案件で不透明性も拡大。ロシアでの新規LNG生産プロジェクトもウクライナ侵攻に伴う制裁等により先行きは不透明であり、既存プロジェクトの生産継続にも不確実性が発生。豪州での労使紛争リスクも現実化。
14. LNG市場の柔軟性が重視される一方、安定供給確保も重視される。不確実性の高い市場の下、LNG長期安定確保を可能とする官民での工夫も必要。

以上